

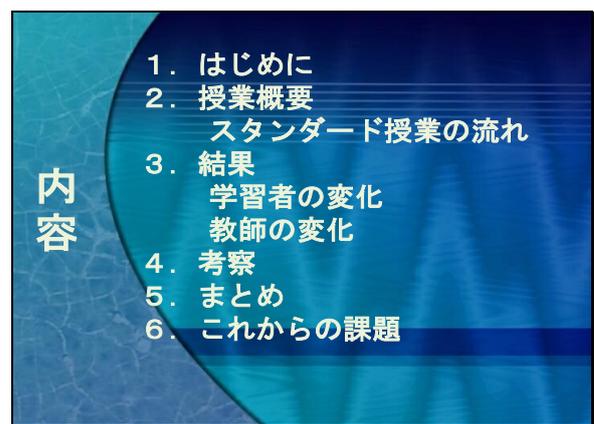
<第2日目>

発表①：「モンゲニ統合学校 9年生におけるスタンダード実践報告」

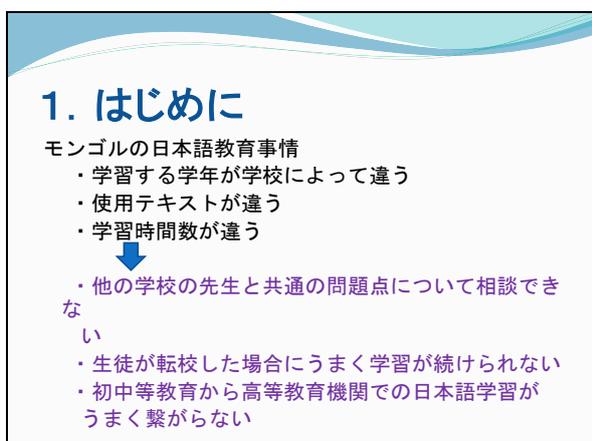
T.オユンゲレル先生



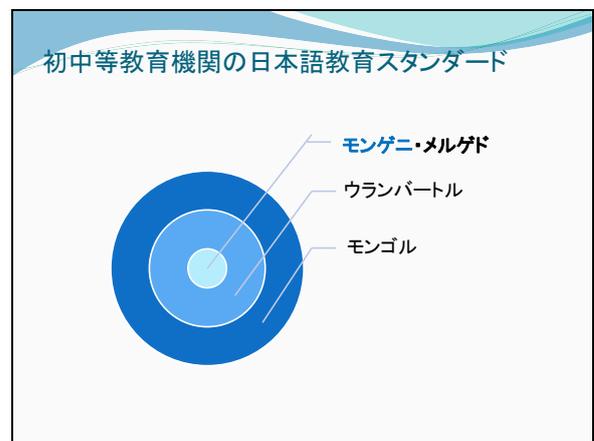
1



2



3



4

2. モンゲンニにおける授業概要



5

9年生の生徒



6

スタンダード授業の流れ

- 復習
- ↓
- Can-doの提示(資料1)
- ↓
- 気づきを促す活動をする
- ↓
- 学習者から新しい言葉を引き出す
- ↓
- 学習者同士で活動
- ↓
- 発表
- ↓
- 評価(自己評価・教師評価)

7

自己評価表

	Can-do	Чадамж	よくできた Сайн явсан できた	できた Чалсан	がんばります Хичээлээ	達成した Бэлтгэж байлсан
1	家族の人数が言える	Гэр бүлийнхээ тоог хэлж чадах	◎			
	家族の職業が言える	Гэр бүлийнхээ ажлыг хэлж чадах		○		◎
	漢字が読み書きできる	Ханз уншиж бичиж чадах	◎			

8

教師評価

	名前	確認問題	学習者の反応	
			話せるか	自発性
1	アマルザヤ	◎	◎	◎
2	ビルグーン	○	◎	◎
3	ビルグーンザヤ	◎	◎	◎
4	ノムルーン	◎	◎	◎
5	ノムーン	◎	◎	◎
6	ムンフェルデヌ	△	△	△
7	トグルドル	○	◎	◎
8	フラン	◎	◎	◎
9	エンフトムルジン	○	◎	○

◎よくできた ○できた △がんばって

9

自己評価 /3学期/

Sүргүүлийнхаа талаар ярьж тайлбарлаж чаддаг болох						
No	内容	Can-do Чадамж /Япон/	Can-do Чадамж /Монгол/	自己評価 Орийн үнэлгээ	教師評価 Багшийн үнэлгээ	
1	学校はどこ？ Сургуулийн байршил	地図を指して、学校がある場所を示すことができる “モンゲンニ”の意味を説明することができる	Газрын зурган дээр сургуулийнхаа байршилг зааж чадах “Монгени” үгийн утгыг тайлбарлаж чаддаг болох	☆☆☆	☆☆☆	
2	学校の施設 Сургуулийн байр, анги танхим	学校の中の施設それぞれの特徴が言える	Сургуулийн анги танхим болон гэдгээрийн онцлогын талаар хэлж чаддаг болох A棟、B棟、C棟の特徴が言える	☆☆☆	☆☆☆	
3	漢字 Ханз	漢字の読み書きができる 漢字の意味が分かる	Ханзыг уншиж бичиж чадах Ханзны утгыг ойлгож мэдэх	☆☆☆	☆☆☆	
4	科目 Хичээл	自分が勉強している科目名が言える 好き・嫌いな科目が言って、その説明ができる	Хичээлүүдийн нэрийг хэлж чадах Дуртай дургүй хичээлүүдийнхээ талаар тайлбарлаж ярьж чадах	☆☆☆	☆☆☆	
5	クラブ活動 Секс, дугуйлан	モンゲンニ学校の生徒数、教師数が言える どんなクラブ活動があるか、簡単に説明できる	Монгени сургуулийн сурагчдын тоо, багш нарын тоог хэлж чадах Ямар секс дугуйлан байдаг талаар тайлбарлаж чадах	☆☆☆	☆☆☆	

10

ポートフォリオ

- Can-doリスト
- 自己評価表・教師評価表
- タスクシート
- 日本に関する資料・写真・絵など

11

3. 結果～学習者の変化

以前～文法中心授業	現在～スタンダード授業
話す能力が低かった	話す能力が伸び、自発的に勉強するようになった
限られた場面の話しができなかった	勉強した話題について自分のことを自由に話したい気持ちが表れた
学習者に教えたことが定着しない	話す機会が増加したため定着しやすくなった
学習者は教師と話していたので、間違いを恐れていた	学習者同士で話すようになり、遠慮しないで楽しく話すようになった
ついていけない生徒	ついていけない生徒

12

～教師の変化

以前～文法中心授業	現在～スタンダード授業
日本文化、習慣、社会について紹介しにくかった	トピックに合わせて日本文化、習慣、社会について紹介しやすくなった。
教師主導型	学習者中心
授業準備をしていけば問題なかった	学習者の質問に答えられないときがある

13

4. 考察

▶ **学習者**

・利点が多い

- 楽しく自発的に日本語を話せるようになる
- 日本語にもっと興味が持てるようになる
- 自信に繋がる

▶ **教師**

・困難点が多い

- スタンダード授業を行えているのか自信がない
- 従来の文法中心の教え方に戻ってしまうときがある
- 準備が大変
- 学習者から出た言葉を日本語に訳せないときがある
- 日本に関する幅広い知識が必要

14

6. 今後の課題

- **モンゲニの日本語教育の課題**
 - ・ 教師のスタンダードへの理解を深める
 - ・ 新しいカリキュラムの作成
 - ・ 全ての学年でスタンダード授業をする
 - ・ 相談しながらスタンダードを進めていく
- **モンゴルの日本語教育の課題**
 - ・ 共通のカリキュラムの作成
 - ・ 共通の教科書作成
 - ・ 将来的には、初中等教育と高等教育機関の本語教育を繋げる

日

15

5. まとめ

スタンダード授業は学習者には利点が多い

↓

しかし、

教師には困難点が多い

それを克服するためには、

↓

1. 教師の従来の教え方、考え方を変えなければいけない
2. 日本語教育スタンダードに関する教師の養成が不可欠
3. 悩んだときに相談できる場所・他の機関との連携が必要

16



17

<PPT 資料の補足>

- ・同校では2~11年生で日本語を教えており、オユンゲレル先生の担当は9~11年生。
そのうち9年生（生徒数9名）でスタンダードに基づいた授業を実践している。
スタンダード授業開始は11月26日で、今までに33時間行ってきた。
10年生、11年生は、従来通り文法学習を中心とした授業。

・授業の流れ

(②~⑦について、ビデオによる授業風景（スタンダード授業開始後2~3週間目）の紹介あり。)

①前回の授業の復習→②その日の Can-do の紹介→③気づきを促す活動→④学習者から新しい言葉を引き出す→⑤学習者同士で活動→⑥学習者同士で行った活動を、クラス全体の前で発表→⑦評価（自己評価・教師評価）

②：Can-do は、以前は口頭で紹介していたが、現在は PPT で紹介。

③④：以前は授業で使う単語及びそのモンゴル語訳を教師から与えていたが、現在はまず学習者が自ら考え、気づくような活動を行い、その後学習者にとって必要な言葉を学習者から引き出している。

⑤：この日の活動は、学習者同士でペアになり、テーマについての質問を日本語でし合うというもの。学習者は、③④で気づき、引きだれた言葉を使っている。

⑦：以前は自己評価表・教師評価表を別々に作っていたが、3学期からは両者を1つの表にまとめた。これは、教師評価を見せることで学習者のやる気を引き出すため。

- ・ポートフォリオ（学習者が作った実物の回覧あり。)